



小嶋 克文 議員

「震災がれき」の 受け入れについて

問 東日本大震災の復旧、復興の大きな足かせになっているのが、「がれき」です。本市に対する「がれき」受け入れの要請は。

答 愛知県は、県として「がれき」の受け入れを決定しており、その最終処分場として、中部電力碧南火力発電所を始め3カ所が候補地が上がっており、本市に対する「がれき」受け入れの要請はありません。

問 碧南火力発電所が候補地になっているが、どのような対策に取り組んでいるのか。

答 「国、県による地元説明会の早期開催」等の質問、要望を県に対し行っている。また、碧南市など他市と連携を取りながら対応を検討していきたい。

問 「がれき」の放射能拡散が心配されている。「がれき」に対する本市の調査、研究は。

答 放射線の専門家から「放射

線に関する基本事項とその人体への影響について」の説明を受けている。また、東三河広域協議会からは、「被災地調査」についての情報提供を受けている。

防災対策マニュアルについて

問 昨年の東日本大震災以降、津波について心配される市民が増えている。市の南部には港小学校、南部幼稚園がある。学校等の防災対策マニュアルをどのように見直してきたのか。

答 昨年、校長会で見直しを行った。特に、通学路の危険箇所把握を早急に実施するよう各学校に指示をしている。通学路には、河川の氾濫等や、家屋の倒壊や看板等の落下による危険が予想される箇所がある。

問 津波に対する避難訓練の実施については、どのように取り組んでいるのか。

答 高浜小学校では、授業参観の日に合わせて避難訓練を実施し、下校時に、運動場待機している児童を保護者が引き取る訓練を実施する。港小学校では30分後に津波が衣浦港に到達するとの警報発令を想定し、運動場に避難した南部幼稚園児と一緒に、高浜小学校に避難する訓練を行う。



鈴木 勝彦 議員

交通安全対策について

問 通学路の安全点検と安全確保の取り組み状況は。

答 通学路の危険箇所は交通安全と防犯の観点から毎年保護者と連携を取り安全マップにまとめ、児童生徒や保護者に呼びかけます。危険箇所は、担当部と連携して改善に努めています。

問 町内会、まち協等との連携による活動内容は。

答 児童の登下校時に学校や施設の周辺をパトロール隊やスタールガードリーダー等による警戒活動や見守りを実施していただいております。不審者情報は、ホームページへの掲示やプリントしたもので各家庭に伝え、メール配信による緊急ネットワークも全校で導入されています。

問 文科省、国交省、警察庁から全公立小学校に対して「通学路の交通安全の確保の徹底について」の依頼文書が出されたがその内容は。

答 実施内容は①学校における

危険箇所の抽出②合同点検の実施及び対策必要箇所の抽出③対策メニュー案の検討④対策案の作成⑤対策の実施です。学校は保護者等と協力して通学路の点検を実施し、危険箇所を整理し教育委員会に報告をする。対策必要箇所を道路管理者及び警察署から助言をいただき対策メニュー案を作成する。さらに地元住民と調整を図り対策案を作成し要望を行うものです。

地震対策について

問 地震発生時の小、中学校、幼稚園の避難誘導について。

答 各学校で立地条件に合わせて避難訓練の実施を行い、本年からは津波に対する訓練も実施しました。幼、保育園では地震や火事の避難方法を紙芝居で説明し、保育士、教諭が手本を見せ、避難所に移動する時は先頭に立ち避難経路を身につかせています。

問 地域防災計画推進について。

答 標高表示や本年度設置予定の同報系防災無線により津波に対する防災意識の向上を図りより早く情報伝達をし、より高い場所に避難できるように各町内会やまち協等の皆さんと協力して普及啓発に努めてまいります。